

## 第7回函館市財政再建推進会議 会議録

- 日 時 平成24年11月21日(水) 18:00~19:15  
■場 所 市役所8階 第1会議室  
■出席委員 乳井委員, 岩塚委員, 近委員, 阪口委員, 佐藤委員, 高地委員, 長谷川委員

### 【会議概要】

- 1 開 会
- 2 プラン(原案)について
- 乳井委員長
- このプラン(原案)については、それなりの危機感を持って作成されたという感じはするが、どれだけの人に行きわたっているかが、一番の大きな問題だと思う。我々がたくさん会議した結果が盛り込まれた内容となっていると感じるが、まずは取り組んでほしいというのが率直な感想である。
- また、やるのはよいが、チェックと展開が大きな問題になってくると思う。例えば、28年度までということであるが、途中で計画が狂った場合どうするのか、早々と失敗した場合、それをどう修正していくのか。この辺をしっかきしていかなければ、プランをせっかく作っても、書類上は帳尻があつていいとは思いますが、実際はうまくいかないということもあると思うので、そうなった場合の対応が重要になってくると思う。
- それぞれの委員の感想なり、意見なりを聞いていきたい。
- 岩塚委員
- プラン(原案)ができた訳であるが、これで終わりではなく、まさにこれから始まりだと思っている。民間の企業経営もそうであるが、会社が非常に苦しくなり、銀行に対して再建計画を出すという場合、3年計画、5年計画を出した時、進捗管理が必ず求められる。PDCAでいえばC(チェック)の部分である。例えば、1年ごとの目標数値と、1年後の実績がどうだったかということ、1年ごとに進捗管理とか、4半期ごとにしていくとか、定期的に進捗管理をやっていくべきであると思う。その意味でも、この計画を実行するというのは、始まりというところだと思う。
- 次に質問であるが、8ページの図10について、人件費の割合とあるが、何と比較した時の割合なのか教えてほしい。費用なのか、収入なのか。
- 事務局
- 歳出総額に占める割合である。
- 岩塚委員
- 歳出の中の、人件費ということか。普通の企業であれば、収入に占める人

件費の割合というものを考える。人件費率と言えば、収入と比較した方がよいと思っている。収入として入ってくる中で、どのくらいの割合を占めているかということ普通は見ると思う。2つ出していただくとより分かりやすいと思う。

次に、22ページから統一されたフォームで個別表が作成されているが、そのフォームについて、例えば、27ページのNo.11には、△2.8億円とあり、これだけ削減できるというのは一目で分かるが、いくらのもので、という額が表示されているともっと分かりやすくなるのではないか。現在の額だけでもいいので、あった方がよいと思う。

32ページの個別表No.22であるが、経済部門と観光部門の再編の検討とあるが、どんなイメージで考えているのか、現段階の状況でも良いので教えてほしい。

事務局

新幹線開業に向け、経済・観光を一体的に進めていきたいと考えており、再編の内容については、まさに検討している段階であることから、イメージとして示すことは難しい。

岩塚委員

以前は商工観光部の中に、観光のセクションがあったが、どういう形で検討されるにしても、経済部の一部の観光課ではなく、観光で食べていくまちとして、「観光部」くらいの重い位置づけを維持したままでの改革を進めていただきたい。

最後に、第一回目の会議の中で、まっさきに本庁舎の1～8階を、1～7階までにして、8階部分を全て不動産賃貸するとか、市民に開放するとかといった大胆な提案をしたことがあったが、今後進捗状況を見て行く中で、相当厳しい財政状況ということであれば、そういったことも踏み込んで検討してほしい。

佐藤委員

委員長も岩塚委員も指摘していたが、検証をどのようにしていくのかが大切であり、具体的にしていきたい。数字が1年ごとに、実際にできてきたものと、予定していたものと比較をしていって、28年までの数字がもしかしたら、若干変動するのではないかなと思っている。

また、提言書の方でも、補助金のあり方検討委員会でも言ったのであるが、外部の方の視点で、審査・検証する場面というものがやはり重要ではないかと思う。

個別表を見ると、それぞれの部局名が入っていたり、各部局と表記されたりしているが、このプランで関わっていない部局はあるか。

事務局

個別の取り組みについては、該当する部局名を表示しているが、全庁的な取り組みであれば、全ての部局が対象になっている。

長谷川委員

4ページの歳入のグラフがあるが、市税とその他の項目の内訳が知りたい。

市の内訳と他の地域の内訳が分かると、歳入の分析ができる。内訳のそれぞれの特徴を分析し、重点的に力を入れていくと、歳入が増加する可能性があると思う。歳入を増やすとなると、そういった分析が必要になると思う。

事務局

手元がないので、後日資料をお渡ししたい。

近委員

16ページから、抜本的な財政改革があり、なんとなくわかることもあるが、それぞれこれをやることによって、今どれくらいかかっている、どれくらいスリムになるのか、数字を載せていただくとより分かりやすくなると思う。分かる範囲でよいので、数字で示していただければよいのではないかと思う。

阪口委員

5ページのグラフで、歳出の推移のグラフがあるが、改めて、ここ数年で扶助費が増えていることが分かった。市の歳出の中で大きく、逆に事業費が少ないことが分かった。一方で物件費が増えているが、この物件費とは何か。

事務局

物件費の代表的な経費としては、委託料がある。アウトソーシングを進めると、人件費が減って、委託料が増えるので、逆に物件費が増えることとなる。細かい部分でいうと、その他ゼロックス代やコピー用紙代などの消耗品費も含まれる。

阪口委員

指定管理者に移行すると、この物件費が増えるということではいか。

事務局

そのとおり。

阪口委員

扶助費の歳出が、ますますこれからも増えていくだろうと思うが、ここに力を入れていただきたい。個別の項目の中で、34ページのNo.26の取り組みがあるが、こここのところに力を入れていくことが、歳出の扶助費の割合を増やすのか、何とか抑えていい形で生活保護の方を減らしていけるのか、大事だと思うので、特にNo.26については頑張ってもらいたい。

高地委員

個別表については、進行状況が目に見えてわかりやすいと思うが、対策額が入っているものと、入っていないものがある。68ページの財政計画においては、この数字が、マックスでこれらの対策がなったものとした数字なのか、ある程度はっきりしている数字だけを積算したものなのか、ある程度これくらいだろうという予測の数字なのか、どのような数字をもとにしているのか、教えてほしい。

もう一点、この財政計画は普通会計ベースでの数字だと思うが、それでよいか。そのほか競輪、水道などの公営企業会計もあり、函館市としてトータルで考えたときに、この財政収支がこの数字のとおりで足りるのかどうか、どういう見通しなのか教えてほしい。

事務局　　まず、10ページが簡略版で、130ページが詳細版であるが、これが現行を元に今後のことを推計したものである。これによると28年度で34億円が不足するというものである。68ページでは、結果的に諸対策を講じて、それを全て織り込むと、この数字に代わるという表になっている。

高地委員　それは形として分かっているが、その対策額について、個別表では数字が入っているものと、入っていないものがあり、財政計画では、この数字を最大限入れているのか、それとも分かっている部分だけを入れたのかということだが、どうか。

事務局　　対策額の数字の入ったものを全て入れたものである。

高地委員　これ以上に、まだ上限があるということか。

事務局　　そのとおりである。数字の入っていないところは、執行状況で数字が入ってくれば、対策額が増えていくことになる。

高地委員　これは普通会計ということによいか。

事務局　　普通会計ではなく、一般会計の見込みとなっている。

高地委員　一般会計となると、特別会計の影響を受けるのであって、その特別会計が黒字で推移すればよいが、今後、どの特別会計も大きく黒字になるのではなく、厳しい状況になっていくと思っている。例えば、水道であれば、古い水道管が多く、今後設備投資が必要になってくるということを考えると、そういったものを盛り込んでおかないと、当然、この目標で足りるのかということになるが、そうした予測について聞きたい。

事務局　　今回の財政計画は、一般会計の枠組みでの収支計画になっている。その中には、各種企業への繰出金であるとか、特別会計への繰出金があり、現行ベースの中で数字を見ている。一定程度、今ご指摘のあった水道の維持補修等の関係についても、企業局内部で計画をもっており、その施設改修、建設改良に合わせた形での一般会計からの繰出金を、一定程度の金額を見ているので、予想もつかないことが起こらない限り、大きな問題はないと考えている。

高地委員　委員長をはじめ、皆さんが指摘したとおり、ここでスタートするわけであるので、これから、3年、5年先に向けて、1年1年しっかりと進捗管理をしていってほしい。また、例えば、部分部分について、ホームページだけではなくて、例えば公聴会のように、市民から広く意見を聞けるような形をとっていただいた方が、進捗を見ていくうえでも、参考になると思う。

乳井委員長

各委員共通して出てきていた進捗管理であるが、管理の仕方について、何か現時点での具体的なイメージはあるか。チェック機関についてはどうか。

事務局

今回のプランは、かなり踏み込んで作成している。中には、対策額が入っていないものや、最大限見ているものもある。しかし、国の状況が不安定であり、福祉制度などの見直しも想定されるが、毎年度検証していくことは、大変重要であると思っている。

皆さんの任期は来年3月でできてしまうが、この財政再建推進会議については、継続する中で、進捗状況を報告し、意見を聞いていく。

さらに進捗状況については、ホームページにも公表するほか、市議会にも報告し、意見を聞く。市民に対しても説明をしたり、意見を聞く場などについては必要であると考えており、いろいろ検討していきたい。この計画自体は変更しないが、毎年しっかりと検証していく。

乳井委員長

国も不安定で、先行きも見えない状況ではあるが、1年単位でしっかりと検証し、考えていかなければうまくいかないと思う。

一方で、いろいろな人の意見を聞いた方がよいと思う。狭い会議だけではなく、いろいろな意見が出ると思うが、出来るだけ広く、進捗状況を公表し、意見を聞くようにしてほしい。しかも、チェックを十分にしていく。そうでなければ、非常に厳しいという状況を打開していく対策にならないと思っている。

これから始まるわけであるが、スタートでつまづかないように、途中で失敗しないように、しっかりと取り組んでいただきたい。

3 閉 会

事務局

当プランについては、11月末まで実施しているパブリックコメント手続の結果を踏まえ、年内の成案化したいと考えており、本日の皆様のご意見等については、今後の行財政改革を進めるにあたって、参考にさせていただきたい。

次に、この財政再建推進会議について、先ほど総務部長からも説明があったが、今後、市がプランを成案化し、行財政改革を進めていくなかで、プラン目標である「財政の再建」を着実に進めていくためにも、その進捗状況については、定期的に委員の皆様にご報告し、意見等を伺っていきたいと考えている。開催時期は未定であるが、年1～2回の開催を予定しているため、引き続き皆様のご協力をお願いしたい。今ご意見のあったとおり、当会議だけでなく、広く市民に対しても、進捗状況についてはホームページ等で公表したいと考えている。